

フィールドで出会う

風と人と土 4

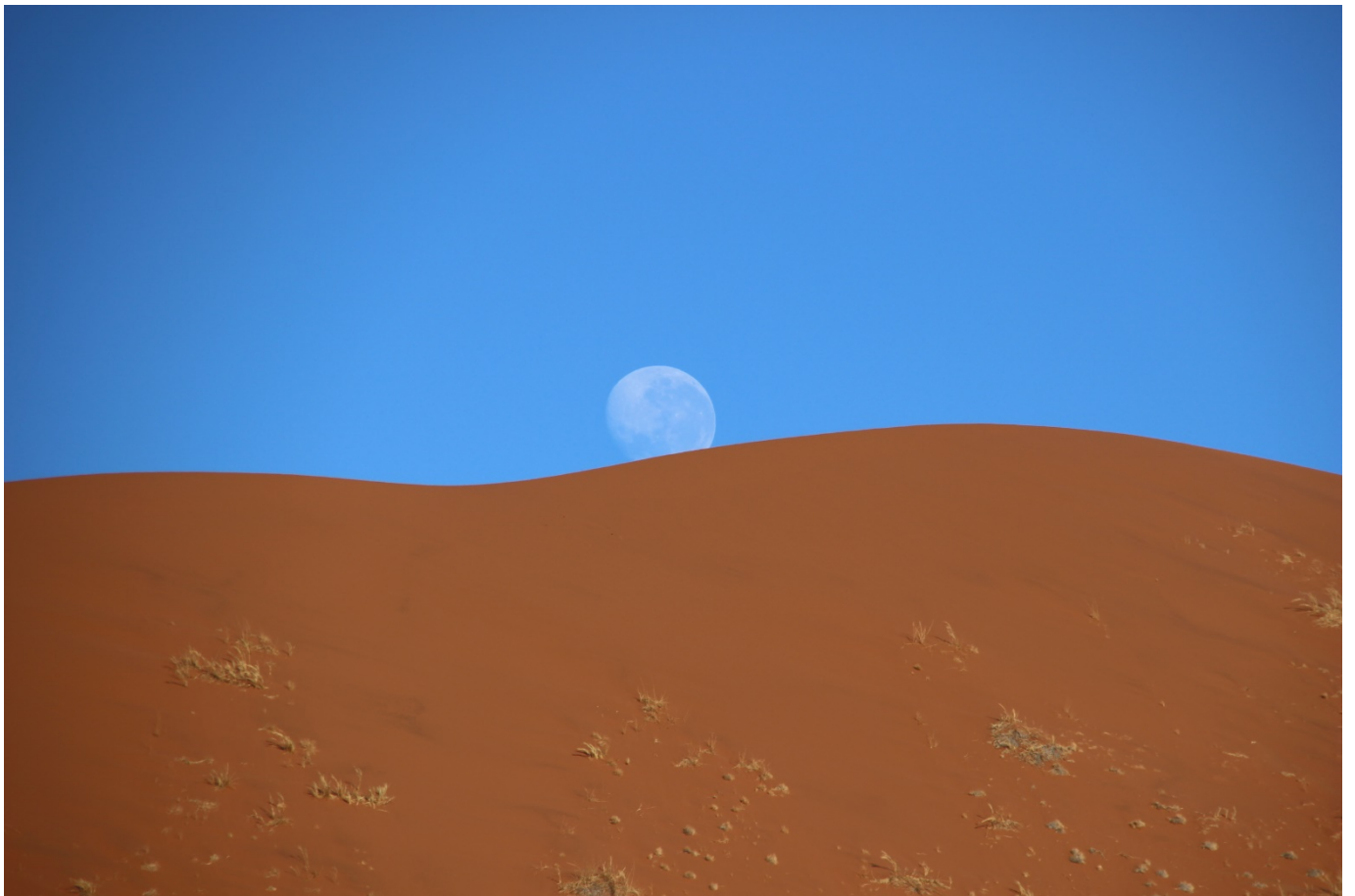
田中樹・宮寄英寿・石本雄大 編

















使用写真

- 表紙 タンザニアの大地－緑の中に開かれる街－
[2014 年 3 月 タンザニア 撮影＝田中樹]
- P.1 渡し舟で対岸の村へ
[2017 年 7 月 ラオス 撮影＝田中樹]
- P.2 脱穀作業
[2005 年 1 月 ニジェール 撮影＝石本雄大]
- P.3 田んぼの中のファームハウス
[2015 年 11 月 インドネシア 撮影＝宮寄英寿]
- P.4 野良仕事を終えて
[2015 年 11 月 インドネシア 撮影＝宮寄英寿]
- P.5 砂丘に沈む月
[2016 年 9 月 ナミビア 撮影＝田中樹]
- P.6 トウモロコシを製粉中
[2011 年 4 月 ザンビア 撮影＝石本雄大]
- P.7 人びとの想いが込められたお墓の村
[2017 年 3 月 ベトナム 撮影＝田中樹]
- P.8 ナイル河の街アスワン
[2017 年 10 月 エジプト 撮影＝田中樹]
- 裏表紙 出作り小屋にて
[2017 年 10 月 ラオス 撮影＝田中樹]

「フィールドで出会う風と人と土」の第四巻をお届けします。

第一巻（2017年3月）、第二巻（2018年2月）、第三巻（2018年3月）とつないできました。第四巻を企画する際に、情性やマンネリという言葉が浮かびましたが、それは杞憂でした。今回も、さまざまな専門分野をもち国内外のあちこちに出かけて、そこに暮らす人びととの関わりを大切にしている研究者（執筆者）らの温かいまなざしに満ちた記事が集まりました。

「風と人と土」とは、「環境」のことです。「環境」という言葉には、様々な定義や意味があります。私たちは、この言葉をしばしば「風土」に置き換えます。「風土」とは、長い年月にわたり織なされてきた人々の暮らしとそれを取り巻く自然や森羅万象との関わりやその現われです。そして、この二文字の間には「人」が隠れていることに気が付きます。それが「風と人と土」なのです。また、「フィールド」は、私たちにとって、学びの場と機会に満ちています。訪ねる土地は学校そのものです。そこに住まうお爺さんもお婆さんもおじさんもおばさんも、そして子どもたちも私たちの先生です。これらの記事は、さまざまな土地で出会った人びとと交流する中で形づくられました。

人びとは誰もが研究者であり、誰もが表現者です。その当たり前のことが、いま忘れ去られようとしています。分業や専門化が進み、自意識の肥大した研究者らや専門家らが難解な用語や言い回しの鎧をまとうなか、人びとの心はそのことから静かに離れつつあります。

私たちは、もう一度、人びとの暮らしや心象の風景と出会い、素朴な言葉で語りあうことを意識したいと思います。

その想いをこのエッセイに込めました。

田中樹、宮寄英寿、石本雄大

目次

- 012 ラッコに魅せられた人たち 關野伸之
- 021 唐桑の漁村にて 飯塚明子
- 024 火事場からみえてきたこと - モノに耳を澄ます - 真貝理香
- 032 植巡り(しょくめぐり) 村山修二郎
- 038 自然農と鍛冶屋 渡邊芳倫
- 042 ケアとホスピタリティの男子会 大谷通高
- 049 貧困地区で暮らす女の子の気持ちとお母さんの気持ち〜ベトナム・フエ市の水上生活者から学んだこと〜 高木佳子
- 055 思いやりのあるお節介ーベトナムのメンタリティーー 岡本侑樹
- 059 市場は生き物ーコルカタの神保町ー 寺田匡宏
- 064 出会って3回目で結婚した夫婦 砂野唯
- 069 おいしい羊の買い方ーモンゴル国・ウランバートルー 庄子元、関根良平
- 074 モンゴル国ー人口318万人のFacebook大国 風戸真理
- 084 オアシスからの便りーサウジアラビア、ワーディ・ファーティマ 石山俊
- 092 I am comingの裏切り 大門碧
- 098 赤ちゃん連れに優しい都市カンパラ 大平和希子
- 103 歯茎でウシが草を食むーケニア西部ビクトリア湖岸のルオの村でー 山根裕子
- 106 男しかいない街“不夜城”でフィールドワーク 藤本麻里子
- 111 アフリカの果物のお話〜マラウイ編〜 福田聖子
- 116 赤土の森で出会った孤高の巨木たち 中尾淳
- 121 ヤロさんとギレさんの仕立店と常連客マルティン 遠藤聡子

フィールドで出会う風と人と土4

編 者 田中樹 宮寄英寿 石本雄大

デザイン 田中樹

発 行 総合地球環境学研究所
京都市北区上賀茂本山457 番地4

発行日 2019 年3 月31 日

© 2018 田中樹、宮寄英寿、石本雄大

ISBN 978-4-906888-58-0

